



6

# 宇和島城通信

2013.3



一昨年、昨年と宇和島城では大雨によって石垣が崩れたり、がけ崩れが起きました。市民の皆さんには色々ご心配、ご不便をかけております。これらの箇所は来年度以降、本格的に復旧工事に取り掛かる予定にしています。

今回は、この2つの災害の原因などについて、調査成果や測量成果を交えながら、お話しした

**【上の写真】** 本丸南角矢倉下あたりの石垣の崩れた様子です。こちらは平成23年7月20日に発見されたものです。

かねてより石垣が危険な個所で、養生シートをかけて一般の方の立ち入りも制限していたところでした。石垣の崩落規模は約30㎡となります。

**【左の写真】** 二之丸二之門下の斜面が崩落した様子です。こちらは平成24年7月11日夜半から12日早朝の間に、幅10m・高さ15mに渡って崩れ落ちました。本丸への唯一の登城道に土砂が流れ落ち、一時天守見学ができなくなり、近年では一般の方の利用に最も大きな支障がでた災害でした。ただ、けが人が出なかったことは不幸中の幸いでした。

# 雨水が引き起こした災害

今回の二つの災害の一番の要因は、大雨時の雨水の流水が局所的に集中したためと考えています。

## ◆平成18年度の本丸での発掘調査成果

災害現場のお話をする前に、平成18年度に実施した本丸の発掘調査成果のあらましについて、今回の災害と関係があるので、お話したいと思います。



①の図は、平成18年に実施した本丸跡の調査成果をまとめたものです。宇和島城通信2号で紹介した二之丸跡の整備にあわせての調査だったのですが、その目的は図中の青い△印に示した二之丸への水の流れを防ぐためでした。

江戸時代には、天守をはじめとした11棟の建物やそれを巡るように塀が建てられていました。その当時は、本丸に降り注いだ雨水はこれらの建物がきちんと機能して適切に排水されていたことが想像されますが、明治以降管理が行き届かなくなると、建物は取り壊され、排水溝は埋まり、建物でふさがれていた石垣上面にも雨が降り注ぎ、雨水の流れは低いところへ低いところへと流れるようになります。そして、その流速も地面がえぐられることで早くなり、大雨の際には雨水が一気に特定の場所に集まるようになっているのが現状です。調査では江戸時代に機能していたであろう排水設備の確認をして、その機能を回復させようと試みましたが、唯一わかった排水口が崩落した南角矢倉下の石垣付近にあり、既に石垣が不安定な状況となっていたことから、盛土により水の流れを変えていく手法をとりました。



② 宇和島城下絵図屏風 部分  
元禄6～8 (1693～95) 年頃

●掲載絵図の所蔵元 ①の絵図：公益財団法人宇和島伊達文化保存会 ②宇和島市立伊達博物館  
●二之丸などの表記について：本文中に出てくるこれらの名称は絵図などの史料にあるものを使用しています。

## ◆ 過去の記録と降雨量

昭和51(1976)年6月25日にも今回と同じような場所が崩れている記録がありました。その時の宇和島の降水記録をみると、1日の降水量は74mm、1時間最大で24.5mmもの雨が降り、また22日から4日間雨が降り続き、総雨量は170mmを超えていました。今回の2箇所の記事では、平成23年7月19日に80mm、1時間最大は14.5mm、その前日には111mm、1時間最大27mmで、平成24年7月12日では69mm、1時間最大で25mm、その前日も60.5mm、1時間最大31.5mmと激しい雨が降っていたのです。

さらに江戸時代でも、寛文4(1664)年5月3日、風雨により本丸で6カ所に渡って石垣や櫓が崩れたとの記録があります。さすがに降水量こそわかりませんが、きちんと排水設備が機能していた当でも対応できなかったほどの大雨だったことが伺えます。そして、この年3月から7年がかりの城の大改修が始まっていて、着手後2か月のタイミングでのこの災害、本丸の改修計画にも少なからず影響を与えたことが想像されます。

## ◆ 本丸南角矢倉下の災害原因 (災害箇所①)



上の図は被災した場所の石垣の正面から写真図です。表紙の写真はこの図の右手前方から写したものです。この場所は前後、上下に石垣が重なり合っていて、複数回にわたる修理が伺えます。今回崩れた石垣は最後に(幕末か?)に積まれたものとなります。四角で囲んでいるところが先述した本丸からの排水口です。崩れた直後にはわかりませんが、その後の経過観察で崩れた石垣の背後の斜面に幾筋にも水が流れ出した跡を確認、大雨時のしみ込んだ水がこの地点から土を押し流しながら一気に噴き出していることが想定され、これこそが今回の石垣の崩落の引き金となったことと判断しています。

## ◆ 二之丸二之門下の災害原因 (災害箇所②)

この場所は平成10年に石垣修理を実施したところでした。その際に実施した調査で、石垣の背後に古い石垣が一部崩れた状態で発見され、それは谷状の窪地を埋めるように築かれていました。谷状であったことで、しみこんだ水が集まり、土を押し流していた痕跡も確認できました。修理工事では、石垣の排水機能を高めるため、裏に栗石をしっかりと敷き込み、軟弱な地盤でもあったため、塩・石灰・真砂土を混ぜ合わせた三和土でしっかりと突き固めて、積み上げていきました。ただ、浸透して出てくる水については、石垣下



④石垣の背後で発見した埋没石垣

の斜面に自然排水するようにしていたため、今回の大雨で排水機能が増したことで、水の通りがよくなり、石垣や改良土の下から水が吹き出し、岩盤面を走り、その表層の土が滑り落ちたのです。

# お城・お知らせ・瓦版

## ◆ 現地説明会のご案内

下記の日時で、現地説明会を開催します。

今回、ご紹介した被災現場2カ所と代右衛門丸跡の石垣修理現場や発掘現場をご案内します。ぜひ、ご参加ください。

【とき】3月17日(日) 午後2時～午後3時30分

【ところ】二之丸(集合場所)

※桑折氏武家長屋門、上り立ち門のどちらからでも案内しております。

※車の方は、最寄りの有料駐車場等をご利用ください。

【申込・参加費】申込不要、参加費無料



## ◆ 宇和島城城山を守る会活動報告

宇和島城を誰もがもっと楽しめる城にしていくことを目的に、平成23年に発足したボランティア団体も、3年目を迎えました。色々な取り組みを「遊び」や「学び」をとおして、楽しく活動しています。

現在は40名程度の会員で、月2回、午前中2時間程度の活動をしています。年会費500円となりますが、一緒に楽しみたい方、文化課担当者(廣瀬)までご連絡ください。もう少し詳しくお知りになりたい方はこちらへ→城山を守る会ブログ「大目付日記」(<http://uwajimajou-shiromori.blogspot.com>)



## ● 宇和島城登城者アンケート調査 (5月4日)

宇和島城では初めての終日アンケート調査を実施しました。いやし博や高速延伸の効果もあって、登城者総数1975人と過去最高の数字となりました。アンケートには799名の方が協力いただき、ほとんどの方が来てよかったというお答えでした。



## ● 天守に泊まって星空観測 (7月28~29日)

NPO法人えひめ星空キャラバン隊の方々にご協力いただいて、実施しました。重要文化財の天守に泊まってのイベントは全国初で、30名余りの親子の方が参加、なかなか普段体験できない内容に、皆さん興奮気味で、楽しんでくださいました。



## ● 宇和島城スタンプラリー (11月18日)

宇和島城秋のイベントとして実施しました。100名の方がスタンプ帳を片手に城内を巡ってもらいました。各ポイントでは問答があり、参加者の方と城守さんたちとで色々な会話が弾んでいたようで、参加者もスタッフも楽しいイベントでした。



## ● 植物?会

5月から守る会の中の部会として始めた取り組みです。城山の魅力の一つとなる植物にもっと多くの方が親しんでもらえるような活動を毎月2回、定例活動とは別に実施しています。植物調べから説明板やガイド本の作成に取り組んでいます。



## ◆ ウスベニカンザクラ、見頃です!

本丸周辺にあるウスベニカンザクラが見ごろになっています。ソメイヨシノよりも濃いピンク色で、白亜の天守とのコントラストがとてもきれいです。登っていただくのは少し大変ですが、一足早い春の訪れをお城山で感じてみませんか?

## ■ 問合せ先

教育委員会 文化課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 [bunka@city.uwajima.lg.jp](mailto:bunka@city.uwajima.lg.jp)